



2022年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年11月5日

上場会社名 持田製菓株式会社

上場取引所 東

コード番号 4534 URL <https://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 竹田 雅好

TEL 03-3358-7211

四半期報告書提出予定日 2021年11月12日

配当支払開始予定日

2021年12月1日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	54,009	4.6	6,131	15.2	6,377	13.6	4,916	9.1
2021年3月期第2四半期	51,623	0.2	7,229	16.6	7,385	15.5	5,411	17.8

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 3,863百万円 (41.1%) 2021年3月期第2四半期 6,563百万円 (187.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	128.47	
2021年3月期第2四半期	139.63	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	162,357	128,921	79.4
2021年3月期	161,791	126,974	78.5

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 128,921百万円 2021年3月期 126,974百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		40.00		50.00	90.00
2022年3月期		40.00			
2022年3月期(予想)				40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	106,500	3.4	10,000	16.7	10,400	15.2	7,400	13.8	193.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.9'2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期2Q	40,630,000 株	2021年3月期	40,630,000 株
2022年3月期2Q	2,361,361 株	2021年3月期	2,360,613 株
2022年3月期2Q	38,268,903 株	2021年3月期2Q	38,753,028 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料は、2021年11月12日(金)に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
3. 補足情報	10
(1) [連結]設備投資、減価償却費、研究開発費	10
(2) 主要製品の売上高	11
(3) 医薬品等開発状況	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

医薬品業界では、社会保障費財源確保の問題を背景とする薬剤費抑制政策が継続的に推し進められる中、2021年4月には薬価の中間年改定が行われました。また企業間競争も加速しており、引き続き厳しい事業環境にあります。

このような状況下、当第2四半期連結累計期間における当社グループ(当社及び連結子会社、以下同じ)は、事業環境の変化にも対応し持続的に成長し続けるために、利益重視と将来への投資の継続を基本方針とし、「新薬等への注力」「次世代の柱構築のための継続的な投資」「選択と集中による、リソースの戦略的再配分」に重点的に取り組んでまいりました。医薬品関連事業では、循環器、産婦人科、精神科、消化器の重点領域等へリソースを集中し、主力製品を中心とした学術情報提供活動を積極的に展開いたしました。また、ヘルスケア事業は、敏感肌用スキンケアのパイオニアとして事業活動を行い、マーケティングの強化に努め市場開拓を図ってまいりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は54,009百万円で前年同期比4.6%の増収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業の売上高は51,170百万円で前年同期比4.8%の増収となりました。新薬の抗うつ剤「レキサプロ」、潰瘍性大腸炎治療剤「リアルダ」、慢性便秘症治療剤「グーフイス」、「モビコール」、及び月経困難症治療剤「ディナゲスト」の売上高が伸長しました。一方、長期収載品の高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤「エパデール」、慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤「トラムセット」、及び持続性Ca拮抗降圧剤「アテレック」の売上高は、前年同期を下回りました。後発品事業の売上高は前年同期をやや上回りました。

ヘルスケア事業の売上高は2,839百万円で前年同期比2.3%の増収となりました。「コラーージュフルフルシリーズ」の抗真菌成分配合シャンプー・リンス、同シリーズの育毛剤、および基礎化粧品「コラーージュリペアシリーズ」の売上高が伸長しました。

次に当第2四半期連結累計期間の利益面につきましては、医薬品関連事業の売上高増加に伴い売上総利益は増加しましたが、研究開発費を主とした販売費及び一般管理費が増加したことにより、営業利益は6,131百万円で前年同期比15.2%の減益、経常利益は6,377百万円で前年同期比13.6%の減益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は4,916百万円で前年同期比9.1%の減益となりました。

研究開発の状況につきましては、研究面では、オープンイノベーションの推進を通じた早期開発候補品の導入等により開発パイプラインの充実を図るべく創薬研究活動に取り組んでおります。また、統合失調症治療薬、疼痛治療薬(TRPV1拮抗薬)の導出活動にも積極的に取り組んでおります。

臨床開発面では、新規高純度EPA製剤「MND-2119」が製造販売承認申請中です。「リアルダ」の小児適応、「レキサプロ」の小児適応、ファイザー株式会社と共同開発を行っている抗うつ剤「MD-120」、中国において住友製薬(蘇州)と提携して開発を進めている高トリグリセリド血症治療剤「MND-21」、及びイドルシアファーマシューティカルズジャパン株式会社と共同開発を行っている不眠症治療剤「ACT-541468」については、それぞれ臨床第Ⅲ相段階にあります。肺動脈性肺高血圧症、及び間質性肺疾患に伴う肺高血圧症治療剤「MD-711」については、臨床第Ⅱ/Ⅲ相段階にあります。

医療機器として開発している関節軟骨損傷治療材「dMD-001」については、検証的治験段階にあります。また、海綿体神経損傷治療材「dMD-002」の探索的治験を開始しました。

当第2四半期連結累計期間の研究開発費は6,508百万円であります。

なお、業績に対する新型コロナウイルス感染症の影響は限定的でした。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当社グループの当第2四半期連結会計期間末の総資産は、162,357百万円となり、前連結会計年度末比で565百万円増加いたしました。

資産の増加は、主に現金及び預金が減少しましたが、有価証券や受取手形及び売掛金が増加したためです。負債の減少は、主に支払手形及び買掛金が増加しましたが、未払法人税等や賞与引当金が減少したためです。純資産の増加は、主に配当金の支払により利益剰余金が減少しましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加があったためです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、41,299百万円となり、前連結会計年度末比で

312百万円増加いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に法人税等の支払による支出がありましたが、税金等調整前四半期純利益などにより2,891百万円の収入(前年同期は3,013百万円の収入)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に定期預金の払戻による収入がありましたが、有価証券の取得による支出や有形及び無形固定資産の取得による支出などにより666百万円の支出(前年同期は925百万円の支出)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払による支出により1,915百万円の支出(前年同期は1,553百万円の支出)となりました。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、今後も厳しい状況が継続すると考えられますが、当第2四半期連結累計期間の業績は計画を上回って推移していることから、2021年5月14日に公表いたしました連結業績予想を変更しております。連結業績予想の修正につきましては、本日(2021年11月5日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、現時点では、業績に対する新型コロナウイルス感染症の影響は限定的と見込んでおりますが、今後、業績に大きな影響が見込まれる場合は、速やかに情報を開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	54,487	51,300
受取手形及び売掛金	28,766	31,301
電子記録債権	423	47
有価証券	8,999	12,499
商品及び製品	14,404	14,813
仕掛品	1,759	1,628
原材料及び貯蔵品	6,442	5,496
その他	3,508	3,303
流動資産合計	118,793	120,390
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,939	4,939
機械装置及び運搬具（純額）	2,047	1,860
土地	5,092	5,092
その他（純額）	1,220	1,894
有形固定資産合計	13,299	13,786
無形固定資産	646	651
投資その他の資産		
投資有価証券	20,272	18,818
繰延税金資産	3,198	3,608
その他	5,580	5,102
投資その他の資産合計	29,051	27,529
固定資産合計	42,998	41,966
資産合計	161,791	162,357

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,477	9,047
電子記録債務	1,245	990
未払法人税等	2,061	1,607
賞与引当金	2,496	2,102
その他の引当金	787	262
その他	13,641	13,392
流動負債合計	28,710	27,403
固定負債		
退職給付に係る負債	4,652	4,582
その他	1,453	1,448
固定負債合計	6,106	6,031
負債合計	34,816	33,435
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	116,288	119,291
自己株式	△8,857	△8,860
株主資本合計	116,532	119,532
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,311	9,310
退職給付に係る調整累計額	131	79
その他の包括利益累計額合計	10,442	9,389
純資産合計	126,974	128,921
負債純資産合計	161,791	162,357

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日)
売上高	51,623	54,009
売上原価	24,491	25,079
売上総利益	27,132	28,929
販売費及び一般管理費	19,902	22,797
営業利益	7,229	6,131
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	128	137
その他	64	119
営業外収益合計	194	257
営業外費用		
支払手数料	7	7
為替差損	28	—
その他	2	4
営業外費用合計	38	12
経常利益	7,385	6,377
特別利益		
受取和解金	27	—
投資有価証券売却益	—	526
特別利益合計	27	526
特別損失		
固定資産除売却損	59	4
災害による損失	—	2
固定資産撤去費用	—	104
特別損失合計	59	110
税金等調整前四半期純利益	7,353	6,793
法人税等	1,942	1,876
四半期純利益	5,411	4,916
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,411	4,916

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	5,411	4,916
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,146	△1,001
退職給付に係る調整額	5	△51
その他の包括利益合計	1,151	△1,053
四半期包括利益	6,563	3,863
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,563	3,863

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	7,353	6,793
減価償却費	1,309	1,318
受取和解金	△27	—
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△526
固定資産除売却損益(△は益)	59	4
災害による損失	—	2
固定資産撤去費用	—	104
賞与引当金の増減額(△は減少)	△251	△393
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△37	△144
受取利息及び受取配当金	△129	△138
支払利息及び支払手数料	7	7
売上債権の増減額(△は増加)	380	△2,158
棚卸資産の増減額(△は増加)	1,183	668
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△556	49
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,141	314
その他の流動負債の増減額(△は減少)	69	△305
その他	△1,038	△582
小計	4,180	5,012
利息及び配当金の受取額	129	138
利息及び手数料の支払額	△7	△7
和解金の受取額	27	—
法人税等の支払額	△1,316	△2,251
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,013	2,891
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△10,000	△6,500
定期預金の払戻による収入	10,000	10,000
有価証券の取得による支出	△1,000	△4,500
有価証券の売却による収入	1,000	1,000
有形及び無形固定資産の取得による支出	△929	△1,133
固定資産の撤去による支出	—	△73
投資有価証券の売却による収入	—	538
その他	3	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△925	△666
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1,551	△1,912
自己株式の取得による支出	△1	△2
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,553	△1,915
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	531	312
現金及び現金同等物の期首残高	37,791	40,987
現金及び現金同等物の四半期末残高	38,323	41,299

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、一部の取引について、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識していましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引については、顧客から受取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識することとしております。また、従来は返品見込額に基づいて流動負債の「その他の引当金」に計上していた「返品調整引当金」については、返品されると見込まれる製商品についての売上高を認識しない方法に変更しており、返金負債として流動負債の「その他」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高へ与える影響はありません。

また、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

3. 補足情報

(1) [連結] 設備投資、減価償却費、研究開発費

1. 設備投資

	2021年3月期	2022年3月期
第2四半期	542 百万円	1,211 百万円
通 期	1,335 百万円	(予想) 1,500 百万円

2. 減価償却費

	2021年3月期	2022年3月期
第2四半期	1,309 百万円 (うち、有形固定資産 743 百万円)	1,318 百万円 (うち、有形固定資産 720 百万円)
通 期	2,742 百万円 (うち、有形固定資産 1,591 百万円)	(予想) 2,600 百万円 (うち、有形固定資産 1,500 百万円)

3. 研究開発費

	2021年3月期	2022年3月期
第2四半期	4,651 百万円 (売上高比 9.0%)	6,508 百万円 (売上高比 12.1%)
通 期	10,849 百万円 (売上高比 10.5%)	(予想) 13,500 百万円 (売上高比 12.7%)

(2) 主要製品の売上高

主要製品の売上高

(2022年3月期 第2四半期実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期 2021年3月期		当 期 2022年3月期		対前年 同四半期 増減率	
	第2四半期 実績	年間 実績	第2四半期 実績	年間 見込		
抗うつ剤	レクサプロ	80	155	85	159	+ 6%
潰瘍性大腸炎治療剤	リアルダ	52	109	62	121	+ 20%
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤	エパデール	53	101	45	83	△ 15%
慢性便秘症治療剤	グーフィス	23	49	29	66	+ 23%
慢性便秘症治療剤	モビコール	15	35	23	43	+ 52%
慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤	トラムセット	22	42	18	31	△ 21%
抗悪性腫瘍剤	ドキシル	14	30	15	28	+ 3%
持続性Ca拮抗降圧剤	アテレック	20	39	17	27	△ 13%
子宮内膜症・子宮腺筋症・月経困難症治療剤	ディナゲスト	9	22	16	26	+ 63%
痛風・高尿酸血症治療剤	ユリス	2	2	3	22	+ 25%
肺動脈性肺高血圧症治療剤	トレプロスト	9	16	8	17	△ 4%
血液凝固阻止剤	ヘパリンNa	6	13	7	13	+ 9%
尖圭コンジローマ・日光角化症治療剤	ベセルナ	5	10	5	10	+ 4%
真菌症治療剤	フロリード	5	9	5	10	△ 3%
後発品		124	256	125	263	+ 1%
スキンケア製品		27	57	28	59	+ 2%

- ・レクサプロは、自社販売と田辺三菱製薬株式会社への販売の合算
- ・アテレックは、アテディオを含む
- ・ユリスは、2020年5月より販売を開始

(3)医薬品等開発状況

医薬品等開発状況

【医薬品】

開発コード 〈一般名〉 〔製品名〕	開発段階	予定適応症	剤型	備考
MND-2119 〈イコサペント酸エチル〉	申請中	高脂血症	経口剤	自社開発
MD-0901 〈メサラジン〉 〔リアルダ〕	臨床第Ⅲ相	潰瘍性大腸炎 (小児適応)	経口剤	シャイアー・ファーマシューティカルズ・グループ 社(現武田薬品グループ)から導入 自社開発
MLD-55 〈エスタロプラムシユウ酸塩〉 〔レクサプロ〕	臨床第Ⅲ相	うつ病・うつ状態 (小児適応)	経口剤	ルンドベック社から導入 自社開発
MD-120 〈デスベンラファキシニコハク酸塩水和物〉	臨床第Ⅲ相	うつ病・うつ状態	経口剤	ファイザー(株)と共同開発
MND-21 〈イコサペント酸エチル〉 〔エパデール〕	臨床第Ⅲ相	高トリグリセリド血症	経口剤	開発地域:中国 住友制薬(蘇州)と提携
ACT-541468 〈ダリドレキサント塩酸塩〉	臨床第Ⅲ相	不眠症	経口剤	イドルシア ファーマシューティカルズ ジャパン (株)と共同開発
MD-711 〈トレプロスチニル〉	臨床第Ⅱ/Ⅲ相	肺動脈性肺高血圧症	吸入剤	ユナイテッド・セラピューティクス社から導入 自社開発
MD-711 〈トレプロスチニル〉	臨床第Ⅱ/Ⅲ相	間質性肺疾患に伴う 肺高血圧症	吸入剤	ユナイテッド・セラピューティクス社から導入 自社開発

【医療機器】

dMD-001 〈アルギン酸ナトリウム〉	検証的治験	関節軟骨損傷	—	アルギン酸ゲル 自社開発
* dMD-002 〈アルギン酸ナトリウム〉	探索的治験	海綿体神経損傷	—	アルギン酸シート 自社開発

* 2022年3月期第1四半期決算短信(2021年7月30日公表)からの変更点

医療機器の開発段階は医薬品とは異なり、第Ⅰ相から第Ⅲ相のような区分はなく、その内容により探索的治験と検証的治験に区分されます